時間をかけて じっくりと

岡田知之

TOMOYUKI OKADA

経済学部講師
愛媛県出身。福岡大学経済学部卒業。慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了、博士課程単位取得退学。趣味は散歩。電車を使って通勤していますが、車窓にうつるのどかな風景に心を癒されています。

田舎の生活

みなさんは、これまでどのような学生生活を営んできましたか。大学に入学する以前の学生生活といえば、小学校・中学校・高校での生活をさすことになりますが、大学での生活と小学校・中学校・高校での生活は大きな違いがあるように思います。

私の小学校・中学校・高校での生活を振り返ってみると、当時は常に時間に追われていたような気がします。小学生のころは１学年に２クラスしかないような田舎で生活していました。田舎というとのんびりした印象があるかもしれませんが、いつでものんびり過ごせるわけではありません。生徒数が少ないため、学校で行われる行事は全員参加が基本でした。学校の行事として、毎学期２から３の行事（例えば市のスポーツ大会や運動会でのブラスバンドなど）があり、そのための準備や練習を行う必要から、高学年になってからは、毎日帰りが午後６時頃だったような気がします。中学生になると、部活動でやはり毎日帰りが遅くなり、高校へ進学した後は、部活動に加え遠距離通学（当時、市内に普通科の高校がなく、片道約１時間かかる隣町の高校へ通っていました。）の為、さらに帰宅が遅くなったと記憶しています。

それに対し、大学生になってからは、有り余る時間を持て余していました。住んでいた場所も大学近くの下宿でしたし、バイトもほどほどにしかやらず、ほとんど何もしないまま、時間だけが過ぎていったように思います。

限られた時間

人によって、多少の差はあるかもしれませんが、（小、）中、高では、自由にできる時間が限られている中で、多くのことを行わなければならないケースが多いような気がします。短時間で多くのことを行うためには、「要領のよさ」が必要となります。（小、）中、高では、要領のよさが求められているのかもしれません。おそらく、社会人になれば、いっそう要領のよさを求められることになるでしょう。無駄なく、要領よく生活することは、スピードを求められる現代社会では、避けることができないのかもしれません。しかし、要領のよさを追求することが、「考える力」や「判断する能力」を養うことの妨げとなるという可能性は否定できないのではないでしょうか。

じっくり考えよう！

要領よく物事を進めようとする場合、試行錯誤のプロセスやじっくりと考えることは軽視されがちです。しかし、単に知識を吸収するだけではなく、学習した知識から自分なりの考え方を持つためには、試行錯誤のプロセスやじっくりと考えることはどうしても必要なのではないでしょうか。幸いなことに、大学では時間が豊富にあります。みなさんには、豊富にある時間を生かし、時間をかけてじっくりと何かに取り組んでいただきたいと私は思っています。経済学に携わる者としては、できればじっくりと経済学に取り組んでもらいたい気持ちはありますが、別に経済学である必要はありません。何でもよいので、自分の興味のあることに時間をかけて取り組んでほしいと願っています。そして、（自分なりの根拠をもち）自分で判断する力を養っていただければと思っています。

大学は、定年後を除けば、時間にゆとりをもてる唯一の場所といっても、言い過ぎではないでしょう。この貴重な大学での生活に悔いが残らないように、「何か」に懸命に取り組んでいただければと思います。